

令和6年度春期 IT サービスマネージャ試験合格発表 分析コメントと今後の対策

(株) アイテック IT人材教育研究部 2024,7,4

4月21日(日)に行われた令和6年度春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、ITサービスマネージャ試験の分析コメントをお知らせします。

試験の出題形式の変更などなく、これまでと同様に実施されました。

■IT サービスマネージャ試験試験 (SM)

[令和6年度春期 IT サービスマネージャ試験 統計情報]

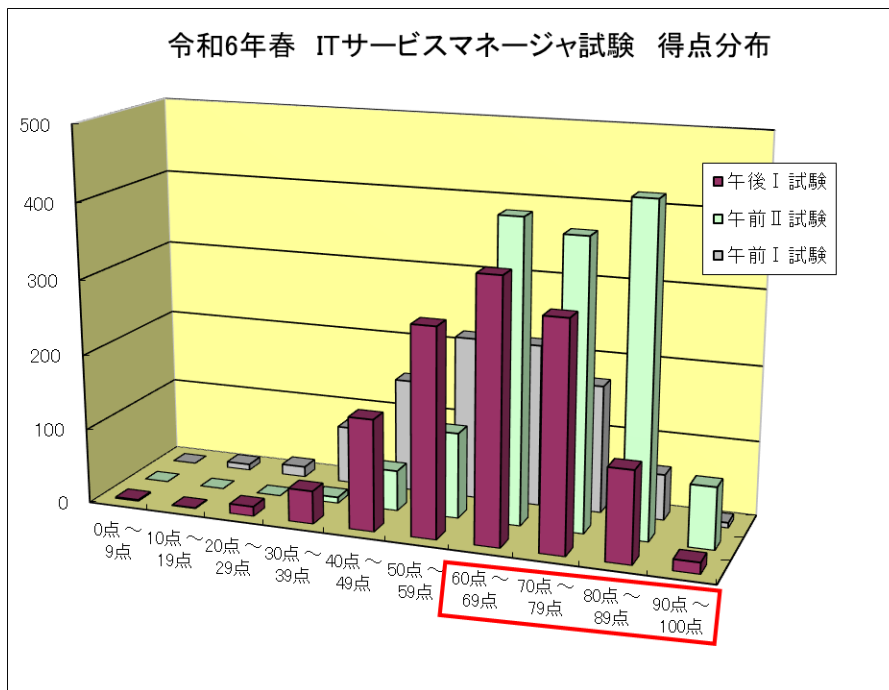
応募者	2,879人
受験者	2,000人
合格者	300人
合格率	15.0%

令和6年度春期のITサービスマネージャ試験の合格率は15.0%で前回の15.2%とほぼ同じでしたが、平成21年以降の現在の試験制度になってから2番目に高い合格率になっています。次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

[令和6年度春期 IT サービスマネージャ試験 スコア分布]

得点	午前I試験	午前II試験	午後I試験	午後II試験	合格者
0点～9点	0	0	2	D 69	
10点～19点	8	0	1		
20点～29点	14	0	13	C 137	
30点～39点	77	8	44		
40点～49点	151	54	148	B 268	
50点～59点	217	114	275		
60点～69点	216	400	345	A 300	
70点～79点	170	382	300		
80点～89点	61	433	121		
90点～100点	7	82	15		
計	921	1,473	1,264	774	300
対前試験比率		159.9%	85.8%	61.2%	38.8%
午前I免除者(概数)	1,079	54.0%			

合格者数	300	採点者数の割合	合格者数との差
午前I 60点以上合計	454	49.3%	154
午前II 60点以上合計	1,297	88.1%	997
午後I 60点以上合計	781	61.8%	481
午後II-A 評価	300	38.8%	0



午前I試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前I試験の免除者は概算で1,079人(54.0%)おり、受験者の半数以上の方が午前IIからの受験となりました。

午前I試験で基準点(60点)以上の人は454人(受験者の49.3%)で、前回の49.8%とほぼ同じです。

午前II試験で基準点以上の人は1,297人(受験者の88.1%)で、前回79.6%からかなり増えています。

午後Iで基準点(60点)以上取れた人は61.8%で、前回の60.0%から微減です。

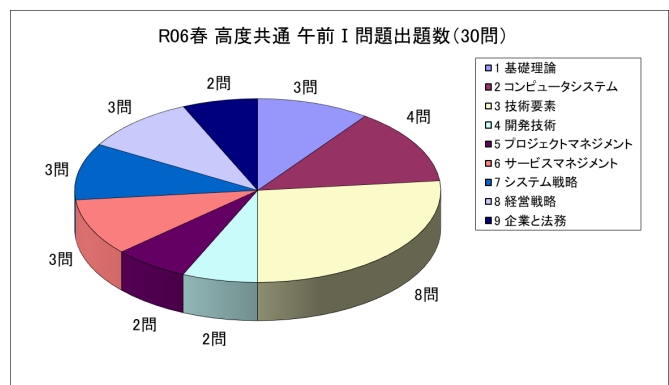
最後の午後IIの論述式試験で合格点(A評価)を取ることができた人は38.8%で、前回の43.8%から5%減っています。問題で求める記述内容が従来と傾向の違うものだったことが影響した可能性があります。

■令和6年度春期 ITサービスマネージャ試験 出題内容について

(午前I試験(高度試験の共通知識問題)) 30問出題/30問解答, 50分

高度試験で共通して出される午前I試験の30問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験(AP)の午前試験80問の中から選ばれていて、テクノロジー系17問(57%)、マネジメント系5問(17%)、ストラテジ系8問(26%)という出題比率です。

午前I試験には免除制度がありますが、高度試験の約4~5割の人が午前I試験から受験しています。この中で60点以上の得点で午前II試験の採点に進む人は5~6割で、出題範囲が広いため試験問題を難しく感じる人がかなり多いといえます。難しい問題が多いときには4割程度の人しか通過できないときもあったので、最初の午前I試験でつまづかないように、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識をつけていく必要があります。



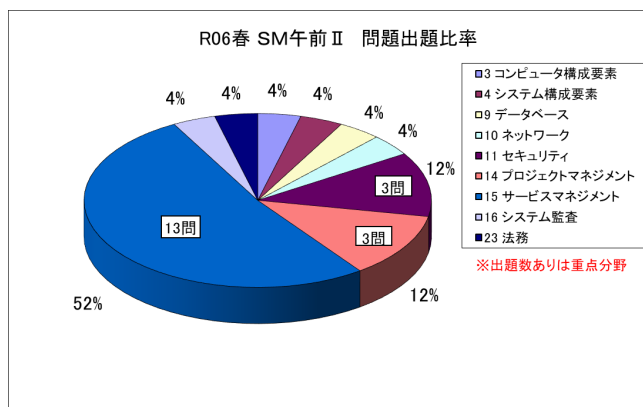
- ・今回の午前Ⅰ試験の内容は、約 6 割が過去問題でしたが、定番といえる問題が増え、前回より解きやすかったといえます。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ 4 問で、最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は 4 問で前回の 5 問と大きく変わっていません。

〔午前Ⅱ試験（専門知識問題）〕 25 問出題／25 問解答， 40 分

IT サービスマネージャの午前Ⅱ試験の重点出題分野はサービスマネジメント，プロジェクトマネジメントとセキュリティの 3 分野になります。出題数は，サービスマネジメント分野の 13 問（前回と同じ）が最も多くなっています。今回 ITIL4®関連で 1 問初めて出題がありました。また，JIS Q 20000 からの出題は 2 問（前回 4 問）ありました。

過去問題は 6 割ありましたが，サービスマネージャ試験の過去問題は 5 問で，前回の 10 問からかなり減りました。過去問 5 問の内訳としては 2 回前の R4 年試験が 3 問で最多でした。

新傾向問題としては 6 問あり，前回と同じ出題数でした。



〔午後Ⅰ試験（記述式）〕 3 問出題／2 問解答， 90 分

今回の午後Ⅰ問題の内容は，問 1 はクラウドサービスのリソースオンデマンドについて，問 2 は CBM について，問 3 は仮想環境の知識について理解してする必要がありました。問 3 は少し難しい問題だったといえます。

- ・問 1 サービスの予算業務及び会計業務（個人投資家向け証券会社） 普通
- ・問 2 IoT を活用した駅務サービスの可用性（中堅鉄道事業者） 普通
- ・問 3 コンテナ型仮想環境における運用管理（ゲームアプリの会社） やや難

〔午後Ⅱ試験（論述式）〕 2 問出題／1 問解答， 120 分

今回の午後Ⅱ問題の内容は，問 1 は改善策として例示された内容を踏まえて自身の具体策を論述する問題，問 2 の設問は前の設問と別内容の記述を求める問題（一般的に設問は，設問で記述したことの評価と改善策を述べさせることが多い）で，問 2 は少し記述しづらかったといえます。

- ・問 1 環境の変化に対応するための変更管理プロセスの改善について
- ・問 2 サービス運用におけるヒューマンエラーに起因する障害の管理について